

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>肯定的な評価(①そう思う+②だいたいそう思う)が教職員100%・保護者74%・地域80%となっている。教職員と保護者・地域との評価に比較的大きな乖離がみられる。今後は更に保護者・地域の声を反映させたり、学校目標を外に発信する必要がある。</p>
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>学校公開日等の授業参観や保護者会、地域と協働して行う行事等、様々な機会をとらえて、保護者や地域の実態を知り、ICTやC4thなども用いて双方向の情報交換を行いニーズを把握する努力をしていくとともに聞き取りの場を増やす。</p>
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員による評価</p> <p>学校はHPでもグランドデザインを添付したり、学校だよりを発行し、学校教育目標や教育方針について伝えてはいるが、更に周知の徹底が必要である。URLを短くする等の工夫を行い、まずはアクセスしやすい環境を整えることを検討してもよいのではないかと。行っていることや取り組んでいる内容と教育目標とをことあるごとに関連付けて発信していくことが大切である。</p>
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>児童、保護者のほぼ9割が肯定的な評価をしている。地域は8割で、残りはわからないと答えている。子供たちが楽しく学校生活を送っていることを知ってもらうには、学校での子供の様子や取り組みを地域の人に知らせて行く必要がある。そのためにどのように発信していくことが有効なのかを検討する必要がある。</p>
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□系列1 □系列2 □系列3 □系列4 □系列5</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>学校が楽しいと感じている児童が多い反面、12%の児童が否定的だったり、わからないと答えている。教員は、そういう児童に目を向けて行く必要がある。地域の人々の「わからない」を減らしていくために、地域と関わる行事の設定や、交流を設けていくことで、藤小の子供たちを知ってもらう。保護者に関しては、学級通信などを通して様子を知らせていく必要がある。</p>
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>コロナ禍では、地域と学校の交流ができず、その後も学校行事が精選され、保護者や地域の方々为学校や各学級の様子を知る機会が減少してしまっていることに要因があると考えます。学校は、保護者に対して、学級通信やgoogleクラスルーム等を使用し、学級の様子を伝えていることは、保護者からも肯定的に捉えている意見が多く聞かれるので素晴らしい。継続してほしい。地域との交流については、コロナ禍以前のように戻すことは難しいとも考えるが、オンライン等、何か違った形で子供たちの活動を発信する方法で実施ができることはないか検討してもよいのではないかと。</p>
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>児童の「そう思う」が、教職員や保護者よりも多いことから、児童は肯定的に学習に取り組んでいる。全体として「だいたいそう思う」も含めると8割以上の肯定的な考えが多い(わからないを除く)。自分の考えをうまく発表できなくても、他者の考えを聞いたりする場面を意図的に学校全体で取り入れている成果だと考えられる。</p>
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>苦手意識がある児童への手立てが必要。ICT機器や学び合い活動を取り入れて、一人残らず学習に取り組めるようにさせたい。安心して話を聞いたり、考えを言える学級経営も継続していく。また、保護者や地域の方にも学校公開日などで学習の様子をみてもらい、今後に向けての課題などがあればアンケートで意見を吸い上げて、実践していきたい。</p>
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>学校は学び合いを進めているが、授業の中で話し合い活動やペア学習を取り入れ、日常的に協働する場面を意図的に設けていることが良い。座席位置を工夫し、コの字型で全学級が統一していることが顔を見合わせながら話し合いを深めることができることに繋がっているため評価してよい。学び合いを行う前には、自身の考えをまとめる一人学びの時間を確保しているからこそ、ペア学習等の際、友達に意見を伝えることができていると考える。学習のまとめを自分の言葉でまとめているのは、学力の定着に繋がるので、今後も学校で統一して進めると良い。</p>
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員の9割以上が授業等でICT機器の活用を意識して実践している。また、児童や保護者に関しては、およそ9割近くが有効的な活用方法で学びを深めていることを実感している。しかし、地域では、7割が肯定意見ではあるが、2割がわからないと回答しており、校内でどのようにICT機器を活用した授業展開を行っているかわからない現状であると考ええる。</p>
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>学校公開日等でICT機器を活用した授業を公開し、タブレットを文房具代わりとして活用している姿を見てもらう。また、校内掲示等を児童が作成したものを掲示したり、お便り等でICT機器の活用の様子を紹介していくなど、地域の方の目に触れる機会を増やしていく。</p>
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>学校はICT機器を効果的に使用し、授業で実践することができている。低学年も教員に指示された課題に対してタブレットを駆使する等、使い慣れているように感じる。一昔前の学校教育からは想像ができない程、授業の展開は変化しているが、子供たちは順応している。自身のタブレットを使用し、考えを伝える場面が多く、表現力の一助となる学習効果があると感じる。児童のタブレットの学習内容を教職員が画面に映し出す等、管理及び視覚的に表示できる点も効果的で素晴らしい。普段の授業の様子を目にする機会が増やせないのであれば、発信していくことで更に周知ができると考える。</p>
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p><b>評価結果についての分析・課題</b></p> <p>教職員の多くは体育授業を中心に、体力向上を目指した授業を展開している。運動会などの行事では、学校全体で取り組むことで、直接的な体力向上や、運動好きを増やす機会として捉え指導ができています。8割を超える児童が体力をつけようと努力をしている。保護者や地域の方も概ね学校の体力向上にご理解頂いている。課題としては「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している児童が15%おり、運動や体力向上への意欲を高める取り組みが必要である。</p>
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p><b>課題解決への方策</b></p> <p>課題解決の方策は、体育授業を中心に、体育好きな児童を増やし、行事やイベントを通して、運動好きな児童を増やしていくことが必要である。そのために、体育授業の指導方法の伝達や紹介、教材教具の整理等、授業の質を向上できるようにする。また、体育的行事や運動委員会の児童が中心となって行う企画を定期的実施し、運動に親しむ環境づくりを行う。このような取り組みを学校保健委員会やお便り、HPで発信していく。</p>
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p><b>学校関係者評価委員会による評価</b></p> <p>児童と保護者の学校評価において、「①そう思う」を比べると大きく乖離している。「②だいたいそう思う」を含めた肯定的意見としては両者とも80%を超えているが、学校の具体的な活動を保護者に更に周知・徹底していく必要があるのではないかと。学校行事は、コロナ禍で地域や保護者との交流が減ったことで、学校の様子を見る機会が減少したことが要因だと考える。休み時間の過ごし方一つにしても、学校の様子が十分に見ることができない保護者してみると、「もっと遊んでほしい」と思いから、「わからない」との回答に繋がっているとも考える。働き方改革を推進するためのバランスもあるが、交流ができる機会を検討してもいいのではないかと。</p>
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導 ①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p><b>評価結果についての分析・課題</b></p> <p>結果を見ると教員側の評価は肯定的なものが多く、保護者、児童という順に否定的な意見が散見されるようになってくる。学校として対応しているが、それが即時的な結果につながらず、児童のニーズを満たしていないことが原因だと考えられる。</p>
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p><b>課題解決への方策</b></p> <p>まず初期段階でスピーディーに動くことは非常に重要である。その上で、その後の様子をより注視していく必要がある。被害児童がどのような対応、どのような解決方法を望んでいるかを知る必要がある。そのためには児童の話す力や主体性を同時に育てていく必要があるため、生徒指導の観点だけで独立して動くのではなく、他の観点も加味しながら対応していくべきである。</p>
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p><b>学校関係者評価委員会による評価</b></p> <p>学校内でのいじめアンケートは、子供の見えない部分での様子を知るきっかけにもなるため、年5回の実施をしているところは評価できる。いじめを積極的に認知し、解消率100%を目指す取り組みは今後も続けてもらいたい。メールシステムの連絡帳機能を活用し、保護者と共有・連携できることは、児童の様子や良い行いを知る機会にもなるため効果的だと考える。保護者も担任に伝えやすいと思っっているということを耳にする。今後も連携のツールとして効果的に活用してほしい。</p>
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>結果を見ると、教員側はある程度一人一人により沿い児童理解に努めているという意識の回答をしている。これは、「よさや可能性の伸長」という文言に関しては、子どものポジティブな様子や、学習に関する数値的な伸びに期待しているのだと考えられる。しかし、保護者の1割程度は「あまりそう思わない」と回答しているため、保護者からの十分な理解が得られていない。</p>
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>保護者側が学校に何を期待しているのか、教師側は何に力を注いでいるのかを、しっかりとすり合わせる必要がある。保護者の約1割が「そう思わない」という結果になったように、教員側の取り組みや努力が評価されないのは、保護者のニーズに正対していないからである。数値の伸びであれば学力面、子どものポジティブさであればカウンセリングなど、どこに注力するのか絞り、改善していく必要があると考える。</p>
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>教職員が子供の話を聞く際に目線を合わせているところをよく見かける。子供に寄り添う姿勢が現れている。些細なことだが、教職員のこうした受容する姿勢が、何でも相談できる関係づくりに結びついため、子供の困り感や悩みの早期発見・早期対応に繋がっているのではないかと考える。また、教職員のポジティブな声掛けが子供の意欲を喚起し、学校全体の活気に繋がっていると見受けられる。担任には話づらいことでも、他の教職員には話せるということもケースとしてはあると考えるため、組織的に生徒指導体制の更なる充実が必要である。</p>
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員は個に応じた支援を意識して取り組んでいることが分かる。毎月の特別支援委員会や愛着障害についての研修等、学校全体で特別支援について学んでいることが意識を高めていると考える。また、校内の通級指導教室に通う児童が多く、担任は個別の支援プランを作成し、保護者に評価を入れて返却していることで、連携が取れていると考える。</p>
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。		<p>課題解決への方策</p> <p>結果から7割以上の児童は困ったことを周りに相談できる。たてわり活動等で担任以外の先生が児童を見守ることができている。しかし、2割の子供は相談できず、悩みや不安を抱えている。学習のつま先きは「のび算」、人間関係の悩みは「相談室」等、解決の場が用意されていることと、自分の苦手な気づけることが大切だと考える。</p>
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>保護者の結果から学校は個に応じた指導をしていると6割が答えている。一方で15%の方々は、指導をしていないと思うと解答していることが分かる。また、保護者及び地域の回答には、「わからない・無答」の回答が多く見られる。このことから、校内の特別支援教育についての理解が十分ではないと考える。通級指導教室があること、特別支援学級と通級指導教室の違いも、保護者はまだ理解していない方も多。そこで、機会があるごとに特別支援教育への取り組みを発信していくことがよいと考える。相談室やのびのび算数教室の場の活用等、苦手や困り感に気付く環境を充実させていくことが大切である。</p>
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。		



鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>肯定的な回答は教職員が80%、保護者が70%地域が90%となっていた。保護者、地域が協力的で行事等への参加、地域の人材活用が進んでいることがわかる。教職員の2割弱が否定的意見、保護者の否定的回答、わからないという回答が3割強、地域の方でも1割あった。地域の人材活用のハードルと活用機会の増加・周知に課題がある。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>教育課程の中に、地域人材が活用できる単元、時間等を蓄積し、次年度になっても同じようなことができるようにする。学校応援団を活用しやすいように、応援団の活用場面をリストアップし、活用したときにすぐに見つけられるようにする。</p>
	保護者	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>学校運営協議会を年5回開催し、学校の課題及び改善に向けて話し合いを持てていることはとても良い。「地域とともに」活動する肝として位置付けられるのが学校運営協議会であると考え、地域の学校評価からも肯定的意見が90%を達していることは評価されている証拠である。学校応援団や地域・保護者の方々と連携し、除草活動や学校行事への参加が実施できていることが評価に反映した部分があるのではないかと。</p>
	地域	◎私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。		

鶴ヶ島市立藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない  
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>8割弱の教職員が業務改善を進めることができているが2割強の教職員の否定的な回答であった。放課後の教育相談や生徒指導がらみの家庭への連絡や面談等で、時間を取られている教職員も多く、学級経営の大変なクラスの担任は、時間を割かれてしまっており、業務改善をするのは難しい状況もある。分掌の比重の偏りの見直しや教材研究にかける時間の捻出などが必要である。</p>
	児童			<p>課題解決への方策</p> <p>校務分掌の細分化を進め、主任が一人で抱え込まないように、分担する必要がある。また、教材研究ではデジタル化を生かし、前年度のものが使えるように引き継いだり、教職員間で共有したりする。また、学年内で分担をして、少しでも、時間をかけずに授業準備ができるようにする。</p>
	保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>8割の先生方が肯定的評価をしていることから、学校としての取り組みの努力や成果があがっていることが読みとれる。一方、2割の先生方にとっては学年学級の様子、校務の分掌によるところが課題となっているようである。働き方改革の目的は、学校の教育力の向上であるため、今後も教職員自身の専門性を高めるための時間を捻出していけることにある。一人の教職員に負担が片寄ることがないように担当する分掌を検討したり、課題に組織で対応したり教材や校務のデジタル化をより一層進めたりするなど工夫して、教職員が心身健康で子供たちの育成のため、学校全体の教育力向上に努めていただきたい。</p>
	地域			